児童発達支援における自己評価結果（公表）

公表：2024年2月27日　　事業所名　鳥取県立総合療育センター

配布職員　８名　回答率　１００％

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	・現在感染対策のため１日５組限定としている。利用者が多い場合はトイレを時間差で使用したり、場所を分けたりして対応している。	・事業所の定員は３０名となっているため、登園児数の制限をせず、多数利用となった場合は活動内容や場所について検討が必要。 ➡今後1日５組の制限はなくし、活動内容を考慮した人数調整・職員配置に心がける。
	2	職員の配置数は適切である	7	1	・職員配置は適切であるが、適材適所は大事と感じる。	・来年度以降一元化に伴い新事業等が増える。人員(職員）配置を検討していく必要はある。 ・保育所訪問や居宅訪問事業を含めると、ＯＴ・Ｎｓは兼務であり配置は不足。 ・短時間勤務職員への配慮・新規事業を踏まえ、配置数の見直しは必要。 ➡兼務職員との情報共有に努め、勤務調整は通園部全体で定期的に話し合う機会を設けていく。 ➡次年度の体制について、ワーキングで定期的に管理職と意見交換を行っていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	おもちゃを衝立で隠すなど余計な刺激を取り除いている。保育室内はすべてバリアフリーで子どもが動きやすいようになっている。 ・朝の会や運動、食事など活動ごとに部屋を決めており、子どもにとって分かりやすく切り替えもしやすいよう工夫している。	➡引き続き障がい特性に応じた空間・設備の充実、情報伝達への配慮に努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1	・利用者に合わせてマットを敷くなど環境設備を工夫している。広々走ることができる空間もある。 ・使用ごとの拭き掃除・毎週末の消毒をして清潔を保っている。	➡引き続き、衛生管理・物品の老朽化への迅速な対応に努める。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1	・活動後の振り返りと翌日の打ち合わせについて参加できる職員は全員参加している。	➡設定されている目標に対して振り返りを行うよう職員の意識づけを行っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・事業所のアンケートを毎年実施。いただいたご意見についても職員全員で検討している。 ・親子通園のため保護者との関係が構築しやすく、忌憚のない御意見をいただけるのが当事業所の強みと捉えている。	➡アンケートの回収率向上に努めるとともに、普段から保護者との対話を大切にし、ご意見等の共有に努める。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2	・自己評価を毎年行い、結果をホームページに公表している。	➡今年度の自己評価結果のホームページ公開は、今後予定。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0	・定期的に外部評価を受けている。	➡引き続き定期的に自己評価、第三者評価受審を行い業務改善につなげる。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	・センター内研修、外部研修など必要な研修に随時参加している。特に今年度は、次年度の一元化に向けた研修を多く受講した。	・研修を受ける職員に偏りが生じている。 ➡家庭環境や業務調整等へも配慮しながら、今後も外部機関との意見交換含め研修参加を計画する ➡参加していない職員への伝達、情報共有の場を設けていく。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	・定期的な評価と保護者のアンケート、日々の活動の様子をもとに課題整理表を作成し、全体像をまとめた上で計画を作成している。	・多職種で話し合い、作成にあたっている。児童発達管理責任者が中心に客観的な分析を行う。 ➡日々のミーティング・振り返りの記録等を、多職種で行い多角的な視点で計画を作成する。 ➡簡潔で分かりやすい内容となるよう、書式含めた検討を行っていく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	・リハビリテーション職員を中心に、多職種が同じ視点で評価できるツールを使用している。それらの評価を参考に日々の活動を計画している。	➡異なる職種であっても、活動の組み立てや保護者・関係機関への説明において客観的なツールとして活用していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0	・地域移行など、転園や就園、就学に必要な支援についても内容を具体的に伝えている。	➡引き続き、日ごろの活動で保護者の思いをくみ取りながら、関係機関連携・家族支援に努める。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	・計画で設定している目標や最近の子どもの様子を参考にしながら日々の活動を計画している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	・毎回、職員で活動を組み立てている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	・季節に合わせた活動を取り入れて変化をつけている。子どもによっては同じ活動の繰り返しが効果的なケースもあり考慮しながら作成している。	➡活動を固定化するメリット、新規・季節ごとの活動のメリットそれぞれについて、利用者へ配慮しながら活動プログラムを検討していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7	1	・多職種で子どもの様子を共有できる集団活動を基本としている。 ・個別活動のニーズがあれば登園時間を調整してもらい活動前後で短時間だが対応することもある。	➡個別活動の時間をとるのではなく、個別性に配慮した活動の流れを大切にし、活動・休息・食事時間の配慮に努める。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	・当日の朝に再度支援内容を確認している。	・勤務時間調整等により打ち合わせが不十分になることもある。 ➡打ち合わせに十分な時間が取れないときは、記録の共有・伝達に努め、事務業務は別日で時間確保する等心掛ける。活動内容だけでなく、個々のねらいを共有できる時間確保に努める。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	・活動の振り返りと次回の課題を見つけるため、毎日振り返りの時間を設定している。	・支援終了後の打ち合わせに要する時間が長くなる。 ➡短時間で質の高い振り返りができるよう、職員それぞれが子どもについての知識と意見を持てるようスキルアップが必要。電カル台数含めた検討も必要。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	・振り返りの内容を電子カルテに記載している。	・記録は残しているが、客観的な視点での検証については、改善が必要。 ➡事象のみを報告・記録するのではなく、次の活動につながる視点で職員一人一人が意識しながら記録、支援の改善につなげていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	・モニタリング、アセスメントは半年に１度課題整理表の形で記録をしている。普段の活動でも適宜評価をしている。	➡引き続き関係機関と連携を取りながら、見直しの必要性を判断していく。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	・可能な限り、多職種が参加しそれぞれの視点で相談事への対応などが行えるようにしている。	➡多職種の視点を職員みなが理解した上で、会議に参加し意見交換に努める。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	・個別支援会議には、並行通園先の保育士や地区担当保健師などの関係機関に積極的に声をかけ、情報共有等連携が行えるようにしている。	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2		➡いつ受け入れがあっても対応できるよう、多機能型事業所の強みを生かし入所・ショートステイ利用児と保育用具・部屋等を共有したり、病室に出向くなども心がけている。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	1		➡ご家族を通じて、主治医からの情報収集を行ったり、医療職が中心に電子カルテ情報・おしどりネット情報の共有に努める。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	・移行前に、移行支援会議や活動見学の場を持つなど情報共有できるよう努めている。 ・園訪問の頻度、質ともに向上している。	➡引き続き、見学受け入れや園訪問などを通して、相互理解に努める。保育所等訪問支援事業の立ち上げも準備中。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	現在、該当児童がいない	➡就学にむけて、早い段階から見学会の企画・同行、関係機関同士の意見交換に努めている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	・県立機関同士の意見交換会、西部地区の児童発達支援事業所の情報交換会を実施している。	・一部職員に限定されるが、職員間連携に努めている。 ➡日ごろから顔の見える関係性を心掛け、研修等で意見交換に努めている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7	1	・感染症対策で中断していたが、院内保育園の園児との交流など徐々に計画をしている。	➡地域の園に通っている利用者も多く、そこで交流の機会はある ➡コロナ5類となって以降交流を再開したばかりであり、現時点では十分とは言えない。今後も引き続き他児童との活動の場を計画していく。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	7	・案内が届かず参加ができていない。	・参加案内が届くように連絡しているところ。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	・日々の活動時に保護者と情報共有するよう意識している。	・保護者に直接対応する機会が多いスタッフとそうでないスタッフで差が生じている。 ・全職員が同じように保護者との連携を意識して取り組んでいく。 ➡パパママ会や行事等の機会含め、保護者と向き合い家族支援にあたる。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	8	0	・複数回のプログラムを１クールとして実施している。	・参加率が低く、プログラムの見直しなどニーズに合う実施方法を検討をしていく。 ➡新規契約・低年齢の保護者への案内の仕方・敷居の低いプログラムの導入も検討する
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	・契約時に説明し、利用料改定の際はその都度説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	1		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	・つくしんぼクラブなどで保護者の不安や子育ての悩み、制度の勉強をする機会を作っている。 ・日々の活動の中でも対応している。	➡参加しやすい身近なテーマで、次年度も利用者のニーズに沿った内容を検討する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	・パパ会、ママ会を実施している。多くの家庭が参加しやすいよう内容の検討や参加しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	➡引き続き参加しやすい雰囲気づくり・先輩保護者とのお話会なども企画できるとよい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1		・対応が遅れることがあった ➡スタッフ間で情報共有に努める・メモ等の活用
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	・おたよりを月１回発行している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	2	・写真や掲示物は許可を得てから使用している。	・ホームページ・サポートブックの取り扱い、誓約書を見直し、十分な注意を心がける。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	7	・以前は行っていたが、コロナもあり行事や読み聞かせパネルシアターなどボランティアの受け入れを制限せざるを得なかった。今は行っていない。	➡感染対策に努めながら、地域の園や事業所とのつながりを大切に、今後行事運営や見学の受け入れ等検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1	・マニュアル等をもとに訓練を実施している。	➡職員の異動・利用者の個別性にも配慮した、緊急時対応シミュレーションを見直し、訓練を継続する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	・月に１回避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	1	・服薬や予防接種については定期的に母子手帳で確認している。	➡引き続き、看護師業務について、他スタッフも意識を高め、状況把握を心がける。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	・現在、該当児童がいない	➡食形態含め、利用児のご家族とともに給食内容の確認が行える体制を整える。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2	・ヒヤリハット事例が起きた際には職員間で共有し対策を検討している。	➡過去の事例も振り返りながら、引き続き事業所内で対策を検討していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	・センター内の虐待防止対策委員会主催研修を受講している。 ・子どもの権利擁護について考えるワーキンググループがある。	➡些細な気づき・気になることは、スタッフ間で共有し、ミーティング等でケース検討の機会を設けている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	・契約の際に説明しており、個別支援計画にも記載している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。